

令和元年度 第2回直方市総合教育会議次第

1. 開会及び閉会に関する事項

(1) 日 時 令和元年12月16日(月曜日)

開 会 15時30分

閉 会 16時43分

(2) 場 所 直方市役所 5階 第503・504会議室

2. 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

直 方 市 長 大塚進弘

直方市教育長 山本栄司

直方市教育委員 山内 健

直方市教育委員 澁谷昌樹

直方市教育委員 中野昭子

直方市教育委員 阿部英子

(2) 欠席者

なし

3. 会議に出席した者の氏名

(1) 事務局

総合政策部長 大場 亨

教 育 部 長 安永由美子

市政戦略室長 坂田 剛

教育総務課長 熊井康之

学校教育課長 川原国章

こども育成課長 塩田礼子

文化・スポーツ推進課長 古賀 淳

学校教育課管理主事 大塚泰信

戦略室担当係長 鏡 隆之

(2) 書 記

教育総務係長 船越健児

4. 会議式次第

○教育総務課長（熊井康之）

定刻になりましたので、ただいまより令和元年度第2回直方市総合教育会議を開会いたします。

議事に入ります前に、本日から阿部教育委員が就任されておりますので、一言挨拶をお願いいたします。

○阿部委員

本日より教育委員をさせていただきます阿部と申します。よろしく願いいたします。

○教育総務課長（熊井康之）

ありがとうございます。では、議事に入ってまいります。直方市総合教育会議運営要項の第4条より、議長は大塚市長をお願いいたします。

○直方市長（大塚進弘）

皆さん、こんにちは。第2回目の直方市総合教育会議ということで、本日も前回同様5時を目途として会議を閉めさせていただきたいと思っておりますので、議事進行につきましてよろしくお願いいたします。

前回、皆様方からいただいたさまざまな御意見、下から積み上げていくか上から示すかといった議事進行についての御意見もいただいた中で、事務局より教育大綱の構成についてお示しさせていただいております。それに沿って議事を進めたいと思っておりますので、まず、事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長（熊井康之）

前回の議論を受けたうえで、教育大綱の構成について確認をお願いしたいと思います。

誰が見てもわかりやすいシンプルな形にすること。大きなテーマを決めて、それに基づく複数の基本方針をつくるということ。課題を挙げながら幾つかの基本方針を決めていくこと。また、教育全体、生涯にわたって学ぶという大きな視点からの理念と基本方針という形で構成していくという意見が出ております。

お手元にあるたたき台については、委員の皆様には事前に送付いたしております。これは奈良市を参考につくっておりますが、はじめにとか課題にとという部分が大綱に当たる部分、その後に基本方針が並べてある形になっております。

また、前回、目指す市民像をつくったらどうかと意見もございましたので、間にその部分をいれております。基本的な形は、はじめにという部分、課題という部分がありまして、めざすべき市民像、基本方針とつながる構成を考えております。以上です。

○直方市長（大塚進弘）

既に目を通していただいているということをご前提といたしまして、今事務局より説明がございました奈良市をモデルとした大まかな構成については、お手元に示しているとおりでどうかと思っております。大きなテーマと、それに合わせてはじめに、それから教育を取り巻く課題といったようなもの、これが一つのくくりとして、次のめざす子ども・市民像、それから基本方針といったように、大きくは二つに分けて議論を進めたいと思っております。

大きなテーマについては、言葉がいろいろ出てくるか思いますので、はじめに、それから教育を取り巻く課題、これについてそれぞれ読み込んでいただいた上での御意見等ございましたらお願いをしたいと思います。

○教育長（山本栄司）

事務局のほうでたたき台といいますか、原案をつくっていただいております。前回の話し合いでいろいろポイントになるようなワードをうまくちりばめながら立派なたたき台をつくっていただいております。

イメージとして、このような感じになっていくのだろうかというふうに思います。先ほどスクリーンで出していただきました奈良のモデルを事例にしたということで、奈良市も初めて作成したときはかなり力を込めてつくったのだろうと感ずるところですが、直方市は直方市の教育施策要綱というのが別にありますので、それを含めて大綱ということ考えたときに、余りかた苦しくというか、小難しくつくり上げるのではなく、先ほど出ていましたシンプルというかわかりやすくまとめたほうがいいんじゃないかなと思うところです。はじめにはいいですが、その後の教育を取り巻く課題の1、2、3は挙げるのはどうかと思うところです。3番は幼児教育に特化した形ですが、こういう形で課題を挙げていくと、課題は果たして本当にこれだけなのかと、ほかにもあるんじゃないかなと、その後のめざす市民像や基本方針に入っていないんじゃないかとか、基本方針でこういうことを挙げるなら課題でこれも挙げないといけないと、どんどんふえる方向にしかならないような気がいたします。はじめにのところに、これからの社会、これからの時代はこうだからという大きな枠で捉えた課題として書き込んで、直方市としてはそういうことに応える教育を推進していく。教育大綱をそういう位置づけにします

よということをはじめにの中で書き込んでいって、そのはじめにの次に大綱をテーマとして挙げるような言葉がどんと入ってきて、それを受けてめざす市民像があって、それから基本方針というような構成、流れでいったほうがわかりやすくいいのではないかなという気がして、そういう方向はどうかと思ったのですが。

○直方市長（大塚進弘）

課題があれば当然課題に対する対応としての施策が必要になり、基本方針から具体的な施策になるのだろうということからすると、課題をこういう形の三つに整理していく考え方と、はじめにというところの中にもろもろの課題を入れて、市民像だとか基本方針を打ち出していくという展開の方がいいのではないかと御意見でございますけれども。どうぞ、山内委員。

○山内委員

私は今の教育長の意見に賛成ですけれども、文言はまだ練られていないのでかわりはいろいろあるのでしょうかけれども、読まれるのは市民の方々ですので、読んですっと入りやすい、なるほどと言ってもらえるようなものにしていかないといけないと思うのですね。しかも、それは考え方の順序としてもなるほどと言ってもらえるようにしていかないとだと思います。

そういう意味では、大枠はこれでいいと思うのですが、さらにもう一步踏み込むと、教育を取り巻く課題がやけに詳しいため、後のほうに大きな影響を与えていくことになります。こう読みながら、こういう基本方針でいくんだねと戻りますよね。ここは絶対関連を迫及していくので、そういう意味では、前はできるだけ簡潔にして、これ自体を非常にコンパクトなものにしていったほうがいいのではないかと。教育委員会の立場からいくとさらにそれを受けて教育施策要綱を毎年度、練り上げていきますので、そこで細かく具体的な対応をしていったらいいのではないかとというふうに私も考えております。以上です。

○直方市長（大塚進弘）

ありがとうございました。山内委員から話がありましたように、文言は少し練り上げていかないとと思いますが、構成という意味では、教育大綱というのは市民にしっかりと知っていただいて、直方市の教育、こういう形で行くんですよということを読んでいただく、もしくはそれがすっと腑に落ちていくような形での表現、あるいはそういった中身に気をつけて整理をしていかないとはいけません。澁谷委員、どうぞ。

○澁谷委員

読まれる方が市民ということなので、ずっと入っていくような形でいかないと、この文章では課題が多過ぎて、直方市は何に取り組んでいくのか、教育もいろんな教育があると思いますが、それを具体的に少し絞って書いたほうがいいかなと思います。何を書くのかについては、これから練っていかないといけないでしょうけれども。

○直方市長（大塚進弘）

中野委員はどうでしょう。

○中野委員

課題をこんなに羅列する必要はないと思います。めざす市民像と基本方針に重点を置いて、なるべく文章は簡潔、短いほうが見やすいし、腑に落ちやすいと思いますので、その方向がいいと思います。

○教育長（山本栄司）

たたき台の段階でも、はじめにのところと課題1、2、3同じことが重複して出てきたり、これが課題というのならあれもあるこれもあると出てきてというふうになってしまうので、大きな枠で捉えた課題をどんとはじめにもってきて、勝負はやっぱりその後のだから、どういうふう市民像を目指しますよ、そして具体的な基本方針、それを五つほど挙げていくというのがいいと思います。

○直方市長（大塚進弘）

正しい現状認識、課題認識の上でということを書き込み過ぎている部分もあるのかもしれませんが、そういったところを整理して、課題の認識が後の市民像だとか基本方針につながっていくような形にしたらどうかという御提案でございます。阿部委員はどうでしょう。

○阿部委員

もし、課題がなくて、はじめにめざす子ども・市民像にしたとしても話は見えますか。

○直方市長（大塚進弘）

最初のところが膨らんでいる感じは否めないところがあると思いますので、今、阿部委員が言われるようなことも含めてこの辺の整理をということでは

けば、はじめにというところと課題とが重複しているところも整理しながら、はじめにをまとめたかどうかという御提案でございますが、はじめにから課題のところ落ちていてところがあるのではないかと御指摘もあれば、お出しただいて、事務局の整理に任せたいと思いますけれども。

○教育総務課長（熊井康之）

言われましたように、はじめにの部分と教育を取り巻く課題の部分に合わせて1ページにまとまる程度に短くし、年内には郵送させていただきます。

その部分の内容でかけている部分、加えたほうが良いということがあれば、教育総務課のほうに直接連絡をお願いします。次回の会議では、その内容も織り込んで議論する形をとらせていただきたいと思います。以上です。

○直方市長（大塚進弘）

今、事務局からございましたように、お気づきの点があれば事務局にお寄せいただき、その御意見も踏まえて整理をして、次回までには提示をしたいということでございます。この課題のところについてはよろしいでしょうか。

○山内委員

はい。

○直方市長（大塚進弘）

それでは、構成の中でいうと後半部分に入ろうかと思いますが、後半部分がめざす子ども・市民像、それから基本方針という形になっております。

前段部分で言うと、はじめにと課題を一つに整理したらどうかということになりましたが、市民像と基本方針、構成的には分けているわけですが、これの整理の仕方も含めて御意見がございましたらお願いいたします。

○教育長（山本栄司）

はじめにから課題のところ整理されるとして、めざす子ども・市民像にいくその間に、テーマみたいなものが挙げてありますね。直方市教育大綱という表題があって、このテーマみたいなものが次にどんと来たほうがいいのではないかなという気がします。そして、めざす子ども・市民像にいくと。

○直方市長（大塚進弘）

構成上、はじめにの前に大きなタイトルのようなテーマがきているわけですが、はじめと課題を整理した部分と市民像の間にテーマを挟んで、

それから基本方針といった続きにしたらどうかという提案でございますけれども、他に意見も含めて何かございましたら。

○山内委員

考え方としてはどちらもあり得ると思います。最初に置くという考え方とはじめにの後に置くということと。はじめにの後に置く書き手としては、はじめに書く文章が全てそのテーマに向かっていく書き方を意識して、こういうはじめだからこのテーマですよということが強く出てきますよね。書き手としては書きやすい気がいたします。冒頭に置くと、次のはじめにがぼやけてしまう気がいたします。結論としては、どちらでも悪くないと思います。

○直方市長（大塚進弘）

書き手側の意見はどうでしょうか。

○教育総務課長（熊井康之）

事務局はそこまで整理できておりませんが、奈良市もそのようなつくりになっておりまして、はじめにの部分があって、次に大綱が入ってきています。

はじめにというところで全体的な内容を捉えて、次にテーマがきて、そのあとにめざす市民像、基本方針といくほうが書きやすいという気はいたします。

○教育長（山本栄司）

流れからいうと、はじめにのところいろいろな課題、これから世の中はこうなっていくだろう、だから、直方の課題はこうなんだといったことが出てきて、だから、直方はこのようなことに取り組むんだよということが出てくる。その頭にすごくシンボリックにテーマが出てくるべきじゃないかなと思います。今出しているテーマをベースに、これでいいのかどうなのか、皆さんと協議しないといけないと思います。よりシンボリックなテーマをぼんと出していったほうがおもしろいと思いますが。

○直方市長（大塚進弘）

つくり方はいろいろあると思いますが、インパクトを与えるために最初にどんと打ち出していきやり方もいいと思います。要するに特色は何でしょうかということ、言葉一つでまとめたらこうなるねということで、総合計画づくりのときに、私も経験がございます。議論で下から積み上げて、こういったことをあらわしたらこういうタイトル、こういう言葉に集約されるよね

ということを最初にどんと打ち出して、インパクトを与えて、後に論理の展開をするといったやり方もあるでしょう。委員の皆さん方も、どういうパターンに確定させるかというのは今でなくて結構ですので、御意見はございませんでしょうか。山本委員が言われるように、途中に入れたらどうなのだろうという御提案もありましたけれども。

事務局から二パターン提示していただき、どちらがより市民に訴える力があって、すっと落ちるかをみた方がわかりやすいかもしれないですね。

○教育総務課長（熊井康之）

では、はじめにと課題の部分をつくりかえるとともに、テーマを最初に持ってきた形と、真ん中持ってきたものを、次回お示しするようにいたします。

○直方市長（大塚進弘）

それでは、構成上は、次にめざす子ども・市民像と書いてあるところ、そして基本方針といくわけですけれども、こういう構成、考え方でよろしいでしょうか。めざす子ども・市民像だけじゃなく、こんな言葉のほうがいいのではないかといった御提案もあれば、お受けしたいと思います。

○山内委員

子どもと市民に分ける必要があるのだろうかというのが一つ思うところです。子どもは市民だから、「市民」一くくりでいいのではないかと。それに関連して、先ほど市長が何か落ちていることはないですかと問われましたが、生涯学習は生まれてから死ぬまでの何十年という期間にわたって行われるべきものであって、その中の一部分が学校教育であって、言うならば学校教育も生涯学習の中の一部なのですよね。ところが、それが別個の考え方で記述してあるように思うわけなんです。生涯学習の視点で求められる資質能力はやっぱり学校でも求められるし、育てていかないといけない。そういう関連の中で記述するスタンスが必要なんじゃないかと、読んでいて思います。それは学校教育の事由だけど、直方市にとって生涯学習は大事なんですよという五分と五分のスタンスで書き上げていくというところが、別個に二つに切り離して書かれているんじゃないかなというのが、読みながらずっと感じたことで、そのスタンスでいくと子どもと市民を分けないほうがいいのではないのでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

今言われるように、生まれてから高齢になられるまでずっと一つ市民というくくりにし、何ら分け隔てなく年齢によって何とかすることもない。めざす市民像みたいな形のくくりでいいのではないかという御意見でございますけれども、どうでしょう。御異論がないようでしたら、もうここは子どもというくくりはなくてもいいのではないかということで、整理させていただければと思います。

○山内委員

子どもをなくして市民だけに変えたらやっぱりおかしいよねということになるかもしれません。一部保留ということで、試行錯誤していただけたらと思います。

○直方市長（大塚進弘）

後の基本方針が、生まれてから歳をとっていく過程のプロセスごとに方針を決めていく考え方もあるでしょうし、共通する教育という考え方の整理の仕方もあるでしょう。

ただ、生涯学習というのは、市民力を上げていくために私は極めて重要だと思っております。学校教育だけが大切ではなく、いつまでも学び続ける姿勢といったことが大事だと考えております。市民を啓発し、行政もお手伝いしていくというようなことがないと、市民力も上がってこないだろうと思っています。そういう意味では、生まれてから御高齢になって、その間をどうやってしっかりと大綱の中でうたい込みながら、一方で、手当てをしていくかということに言及したほうが良いと私自身も思っているところです。いやいや、やっぱり重点は義務教育との考え方もあってもいいのかもしれない。私は、議会などでは幼児教育を頑張らないといけないという話もしてきて、やっぱり小さいころ何らかの原因があるとしたら、その原点のところできっと対応することのほうが後々にきつといい影響が出るでしょう。そのほうがかける力もある意味では少なく済むかもしれません。それを含めて、成人した後もしっかりと自分たちが勉強するチャンスを、どこかでスイッチが入るかわからないといえますか、勉強しないといけないと思ったときにできる社会をつくっていないといけないのかなという思いがございます。

失敗を認めてもう一回トライをすることをよしとするような社会をつくるのが大事だろうと思っていますので、そういう意味で生涯学習を生かすべきかなと思っています。

○教育長（山本栄司）

教育大綱をどの枠まで捉えるのかなと思って国の資料を見ていたら、学校教育だけじゃなく、生涯学習、社会教育の分野も全部含めたところで考えているみたいです。必ずそうじゃないといけないというわけではなく、市町村によって捉え方はばらばらで、学校教育に特化してつくっているところもありますし、そこそこの思いが出ています。それぞれ自分たちの市町がやりたいようなものをつくれればいいということならば、直方のこれからを考えたときに、負の連鎖を断ち切るということもあって、まちづくりから変えていく。そこに教育がかかわるんだという考え方からいくと、学校教育だけに特化できるものじゃなく、広く捉えていく方向性が必要と思います。

○中野委員

青年層に対する部分も今からの直方に大事だと思います。そこについて、具体的な文言が入ってきたら、より充実する内容になるかなと思います。

○教育長（山本栄司）

山内委員が言われたように、子どもというのをとって、めざす市民像、市民づくりとかいう観点はおもしろいなと思っております。

○直方市長（大塚進弘）

教育大綱というと狭い感じのイメージで捉えられるところがあるかもしれませんね。この際いろいろ意見をお出しただいて、宿題は事務局のほうに投げて、またやりとりしながら整理ができたらと思っていますので。

○澁谷委員

私は、直方市がやる教育というのをどこか強く大綱に載せていただきたい。直方市がやる教育、直方市はこういうことをやるんだと、インパクトがある形で載せて欲しいなと私は思います。何か文言は考えないといけないですけども。

○教育長（山本栄司）

このめざす市民像から基本方針の中に直方らしさみたいなものが出てくるようになってくるんだろうと思います。そうした場合に、先ほど出てきたテーマ、この言葉を決めてやらないと後が出てこないということになるろうかと。この大きなテーマを、どういう言葉で、文言でいきましょうというのを先に決めて、めざす子ども・市民像と基本方針をつくっていったほうができやす

いのか、めざす市民像と基本方針をつくってそれをあらわすのがこの言葉という形でしていったほうがいいのか、どちらがやりやすいかですね。

事務局は、この大きなテーマに関しては任されても困るだろうと思うので、ここで、この間いろいろ出されておる言葉、文言等を使って作らないといけないと思いますが。

○山内委員

今日は、後半部分での意見が出尽くしてこれでいいねとなったら、次にいわゆるテーマを論議するという形で進んでいくわけですかね。

○直方市長（大塚進弘）

山本委員がおっしゃるように、ある程度ここを書いていないと市民像みたいなものになかなか落とせないのではという御意見もあるので、ぜひお出しただければと思います。事務局側も、いろんな意見をくみ上げたほうが、それを包含するところこういう形の言葉に集約されますみたいなことが出てくると思います。

○教育長（山本栄司）

テーマとしてはこういう言葉じゃないかなというのが、資料の1行目の部分ですよね。

○山内委員

未来をひらく教育、これは事務局でつくったものですよね。

○教育総務課長（熊井康之）

未来をひらくというのは、市長も議会で常々言われていますけれどもSDGs、次世代育成というところからもってきています。未来という言葉は多方面でたくさん出てくるので、未来をひらくということが必要かなと思って入れています。

○直方市長（大塚進弘）

私どもは、総合計画の策定に取り掛かっておりますが、そのベースにはSDGsの17の項目の考え方を取り入れ、持続可能な地域をどう作っていくか、それを生かした施策づくりをやろうとしています。ある意味では、この大綱も同じような形であるというのもありがたい話かもしれないですね。

○山内委員

未来をひらく、これは教育施策に同じような言葉が入っていないかな。

○教育総務課長（熊井康之）

入っています。

○教育長（山本栄司）

こういうテーマが最初にどんとあって、その下にそれを補助するようなサブテーマがくるという流れでもいいと思います。教育大綱をつくるのだから、教育という言葉も省き、未来をひらくでもいいのかなと思う。

○山内委員

未来をひらくはいいですね。

○教育長（山本栄司）

テーマですよ。だから、未来をひらく。

○山内委員

この先、10年、20年、30年、40年、子供たちの未来は厳しいものがあると思います。世界的にも、日本もそうですが、自分たちの力でたくましく向かっていくようなものは、とっても大事にしていかないといけないと思います。そういう意味で、未来をひらくというのはキーワードとしてとてもいいような気がします。

○直方市長（大塚進弘）

私は、山内委員が言われるように、これからは中高年にとっても厳しい世の中であると思っています。対応能力がだんだん落ちていく中でこれだけ変化が激しいと、その人たちもしっかりと未来をひらかなないといけないのではないかと。子供たちはしっかりと環境を整えれば適用能力はあると思いますが、我々世代というか、成年の人たちを含めてですけれども、しっかりと変化に対応して自分たちの未来をひらいていかないとと思っていますので、そこにも未来をひらくという言葉メッセージとしてもらったほうがいいかなと思います。

○阿部委員

先ほど言われたように、生まれてから死ぬまで生涯学習ということなら、21世紀の社会じゃなくて、全体の全世代に向けた言葉でもいいのかなど。

○中野委員

生涯学び続けるという間接的な言葉が入っていますがけれども、生涯学習という言葉が入っていないので、阿部委員が言われたように生涯学習という言葉盛り込むのも、わかりやすくいいかなと思います。

○教育長（山本栄司）

生涯学習といった言葉だとか、そのようなニュアンスのことは、基本方針に入ってくると思います。全体のテーマなので、教育、社会教育から全てを含んだ中でのこの部分の言葉というのは、部分的な言葉は出てこないほうがいいでしょうね。

確かに、市長が言われたように、未来をひらくというのがこの後の基本方針において直方の特色を出していくことになっていくし、これはいろんなことにかかわってくると思います。個人の未来をひらくという意味合いもあるだろうし、直方市の未来をひらいていくということの意味にもなってくるだろうし、これから世の中がどう変わるかわからないようななかで、これからの社会をみんなで直方市がどう切り開いていくか、きりひらいていく力をもった市民を育てていきますよというような大きなテーマになっていくのだろうという気がいたしますので、未来をひらくというのはいいなと思います。

○直方市長（大塚進弘）

言葉が出てしまうと、ついそれいいなという話になってしまうんですけども。

○中野委員

代替案が浮かばないようなら、サブテーマをつけるのはどうでしょう。

○直方市長（大塚進弘）

今までの意見をうまく簡潔に表現できればいいかもしれません。

○教育長（山本栄司）

ないならないでもいいですね。サブテーマとしては、21世紀をたくましく生き抜く力、人づくり。

○山内委員

抽象的ですが、未来をひらく一人一人が輝くまち直方を目指して。

○直方市長（大塚進弘）

総合計画のタイトルにふさわしいような感じですね。

○山内委員

未来をひらく、一人一人が輝くまち直方を目指して。とても抽象的で、何をもって輝くのかというところはありませんが。

○中野委員

共生とか多様性という時代なので、個性が輝いていいと思います。私は、進化とか改革という言葉が好きですが、盛り込んだらどうでしょうか。

○教育長（山本栄司）

前回の会議のとき出ていた変化とか創造、クリエイティブという感じですね。

○澁谷委員

多様化する社会、生き抜く力はどうでしょう。

○教育長（山本栄司）

先ほどの未来をひらくをメインテーマにするのなら、サブテーマとしてはとてもしっかり合いますね。今の多様化する社会を生き抜くと言われたのですかね。多様化する社会を生き抜く力。それが未来をひらく力なんだと。

○直方市長（大塚進弘）

今までの議論を踏まえて、ほかにキーワードになりそうな言葉はございませんでしょうか。多様化はいろいろ形で使われていて、ワンチームという言葉すら多様化の一つのあらわれでもあるので、ある意味では今の社会を象徴するといえます。これからますます多様化というか、ダイバーシティと言われる社会に入っていくと思いますし、一方でこの間出ていたような誰一人取り残さずという話で言うと、多様性と同時に、いかに社会全体で取り組んでいくかといった考え方もあろうかと思えます。

○阿部委員

私は、サブタイトルはなしで、未来をひらく一文字のほうが、インパクトがあると思います。順番も、最初に持ってきたほうが何に対してのテーマなのかを思いながらはじめにを読み始めるので、二番目に持ってくるよりも最初に持ってきていただいたほうが理解しやすいですね。

○直方市長（大塚進弘）

論議の展開の仕方ですね。結論から入っていくやり方のほうが、インパクトがあるという。

○山内委員

未来をひらくだけでもいい感じがしますね。

○教育長（山本栄司）

サブテーマ的なものである程度フォローできる形になれば、市民の皆さんが見たときに、すっといくかなという感じがします。

○直方市長（大塚進弘）

事務局、どうぞ。

○教育総務課長（熊井康之）

先ほどのはじめにと課題の部分を合わせたて整理した内容と、いろいろな言葉でサブテーマになりそうなものを幾つかつくり、一緒に送らせていただきたいと思います。それを、次回参考にして議論いただきたいと思います。そのような運びでどうでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

なかなか文字がペーパーに落とし込めていないところがあり、行きつ戻りつの議論になりかねないので、次回事務局で整理していただいたものを見た上でまた検討いただきたいと思いますというふうに思います。よろしいでしょうか。

○山内委員

はい。

○直方市長（大塚進弘）

あとめざす市民像という言葉に集約したほうがいいのかというのが結論だったと思いますので、未来をひらくのようなイメージからどういう市民像を描くかということもありますので、この辺について何か御意見があればお願いします。

○中野委員

体力面の育成というか、強化といったことを加えたらいいのではないかなと思います。

○澁谷委員

長生きも大切では。

○中野委員

人生は今100年、120年の時代に入ってきていますが、直方に来たら長生きできるのなら、多くの人に移住してくるのでは。

○直方市長（大塚進弘）

市民像の後の基本方針が出てくるときに、なかなか今の話は落とし込めないような感じがしないでもないですが、生涯学習の一環にそういったみずからの健康をしっかりと維持することが人生を明るくするとか、もしくは未来をひらく意味で重要だというキーワードであれば入れていってもいいかもしれません。

○教育長（山本栄司）

文言はまだ整理されていないのでこれからつくっていくといけません。めざす市民像の三つあるうちの二つ目のほうが一つ目よりも上にきたほうがいいのかと思います。下の基本方針の順番に合わせても、一つ目と二つ目は逆のほうがいいのかなど。

○山内委員

これはもっと簡潔にしたほうがいいのかと、育成しますで全部終わっていますが、めざす市民像とあって、育成します、育みますという終わり方は合わない。市民像ときたら、何々な市民といった終わり方がいいのではないのでしょうか。三つ目の、自立した人間として、責任ある生き方ができる市民というのはわかりやすいので、こういう形がいいのではないのでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

総合計画をつくるときに最初に掲げるぐらいしか目にしません、直方市の市民憲章があります。その憲章から余りずれないほうがいいと思います。

また、この自立という言葉は、みずから律するのか、みずから立つのかといろいろ議論をしていたことがあって、どういう意味合いを込めて使うかということも考えないといけません。

○教育長（山本栄司）

市民憲章と照らし合わせてみるといいですね。

○山内委員

教育施策に書いてなかったでしょうか。

○教育長（山本栄司）

市民憲章はないので、ここは練り合わせが必要ですね。

○直方市長（大塚進弘）

事務局のほうに、市民憲章とすり合わせの上で整理をしていただいたほうがいいかなと思っております。文章的には極めて短く簡潔にして、市民像なので、こういう市民という形でとめるのが望ましいと思います。

○山内委員

市民憲章を読んだら、結構、この内容と重なっていますね。

○教育長（山本栄司）

これをもとに整理したらどうでしょう。そうしたときに、基本方針のタイトルと文章はどうなのでしょう。

○山内委員

それはめざす市民像がはっきりしたときに、基本方針との関連が明確になってくると思います。市民像ができた段階で議論していかないといけないのではないのでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

山内委員がおっしゃるように、市民像に対してどういうアプローチを方針として出していくかがリンクしていないと、つながりが見えない感じになりますよね。事務局、どうぞ。

○教育総務課長（熊井康之）

市民像については、短くするとともに、最後はこういう市民でとめることと、市民憲章を考慮して作り直し、これも教育委員の皆様にも事前にお送りいたしますので、次回整理していただくような形でお願いいたします。

最後に、一点だけ御議論を願いたいんですけども、めざす市民像、その一個一個に対して基本方針をつくっていくような形になるのか、数を合わせることにはこだわらないのかということだけ決めていただきたいと思います。

○直方市長（大塚進弘）

事務局より、一対一に対応した基本方針にするべきかどうかということですが、どうでしょう。いろいろなパターンがあるかなと思いますので、余りこだわらなくていいかなとは思いますが、事務局のほうに任せて整理をお願いします。

○教育長（山本栄司）

イメージ的というと、テーマが一点どんとあって、めざす市民像が三つほどあって、基本的な方針が五つぐらいに分かれるというのが、バランスがいい感じがします。めざす市民像も、基本方針にもっていくための市民像だからあんまり具体的な文言が出過ぎたら後がつくりにくいので、そのバランスも大事かなと思います。

○直方市長（大塚進弘）

最初に言ったシンプルに、すっとんわりわかりやすくというところは意識しておかないといけませんね。

○澁谷委員

この文章からいくと、はじめにのところが重く、もう世の中は大変みたいな内容が多すぎます。直方は、自然豊かな中で生活できて、その中で教育ができるようなことも必要ではないでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

未来をひらくとなったときに、直方が持っている資産、明るい面も見えて、未来も見えそうかなという感じも必要ですね。

○教育長（山本栄司）

そういうことも入れてあってもいいかもしれませんね。不易と流行とよく言いますが、何を残すか何を変えていくかというのが大事です。

○直方市長（大塚進弘）

山本委員から不易流行という話も出ましたので、そういったことも含めて前段のところも整理をし、タイトルには未来をひらくといった言葉を頭に持ってくるか下に持ってくるかを次回判断していただくということ。市民像については、市民憲章との整合性をとりながら整理をしていただく。基本方針については、市民像を方針に展開するときはどういう整理をしたらよりわかりやすいかというところを事務局なりに整理していただいて、次回、議論をするというようなまとめで、委員の皆様方よろしいですかね。

○山内委員

はい。

○直方市長（大塚進弘）

それでは、5時までということにしておりましたけれども、いろいろな御意見をいただいておりますし、お気づきの点がございましたら事務局のほうにお寄せいただいて、事務局が整理し、各委員の皆様方に年内に配付という形で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。あとは事務局にお任せしたいと思っております。

○教育総務課長（熊井康之）

長時間ありがとうございました。先ほどの市長のまとめのとおり、本日の意見を整理し、年内にたたき台を送らせていただいて、次回の会議で議論いただきたいと思っております。

次回の会議につきましては、令和2年1月17日の金曜日、同会場にて実施したいと思っております。

それでは、以上で本日の会議を閉会いたします。ありがとうございました。

上記のとおり直方市教育委員会会議規則第13条及び第14条の規定により会議録を作成した。

直方市長

大塚 進弘